サイエンティフィック・システム研究会
Scientific Systems

2015.8.3 版

SS 研システム技術分科会　2015 年度第 1 回会合

クラウド利用　現在、過去、未来

－今後の大学等でのクラウド利用はどうあるべきか－

～ SS 研会員、IS 研会員、CS 研会員機関の方ならどなたでもご参加いただけます ～

■ **日時 ： 2015 年 9 月 1 日(火)　分科会 13:30～17:30 (受付 13:00～)　/　懇親会 17:45～19:00**

■ **場所 ： 富士通株式会社 本社 6 階 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾙｰﾑ　[東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター]**

■ **開催趣旨：**

組織におけるクラウド利用が急速に現実的になってきた。この背景には、クラウドを支える様々な技術の成熟や、クラウド利用による経済効果の実証、政治的な後押しなど様々な要因がある。いずれにしても、今後、多くの組織が、近い将来、組織として実用的なクラウドの利用を開始することが予想される。そのため、今後、実際の経済効果、情報管理のノウハウといったクラウド利用のためのより正確な情報の把握が重要となる。さらに、クラウドに移行させ難いサービスといった、クラウドの限界を知ることも必要である。

そこで、本年度のシステム技術分科会では、過去のクラウド利用を振り返りながら、現在の利活用に至るまでの経緯や、将来の展望、課題などを、クラウドの先駆的な利用、先進的な利用、さらに、クラウド環境の運用の事例や経験をとりあげ、紹介する予定である。

本年度も、クリッカーを活用し、講演者と聴衆の距離を近付ける形式を目指す。また、パネル形式の講演も採り入れ、より深い情報交換、議論が行なえるようにする。

■ **プログラム：** ※予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。

-敬称略-

13:00～	受付
13:30～13:35	開会あいさつ
13:35～13:40	クリッカーの使用方法説明
13:40～14:20 講演 35 分 Q&A 5 分	**[1] 大学のクラウド情報基盤の行方　～ 6 年間の運用を経て、その成果と課題 ～** **長谷川　孝博（静岡大学）** 静岡大学では、2010 年にフルクラウドベースの情報基盤を構築し、その後の 2014 年に行われた全学情報基盤整備において、認証一元化を見据えたクラウド情報基盤の強化整備を行った。安定期を迎えたクラウド情報基盤の上で構築を進めてきた統合認証基盤については、2011 年頃より急ピッチで進められ、今日、主要な情報システムの認証統合化に至っている。2015 年の今日、足かけ 6 年の歳月に亘る大学のクラウド情報基盤整備が是か非かの判断材料が出揃ってきた。本報告では、クラウド情報基盤の変遷を追いながら高効率に機能しているクラウドシステムの事例を紹介し、その成果と課題についてまとめる。また本学情報基盤センターは ISMS に加えて ITSMS の情報システムにかかわる ISO のマネジメント規格を統合認証している唯一の情報系センターであることから、マネジメントシステムとクラウド情報基盤の親和性や効能に関しても話題を展開する。
14:20～15:00 講演 35 分 Q&A 5 分	**[2]北海道大学 アカデミッククラウドからハイパフォーマンスインタークラウドへ** **棟朝　雅晴（北海道大学）** 北海道大学においては２０１１年より国内最大規模の学術クラウドシステムである「北海道大学アカデミッククラウド」を運用し、全国の研究者に対してクラウドサービスを提供している。本講演においては、北海道大学アカデミッククラウドの運用状況や利用事例に加えて、全国規模でスパコンとクラウドシステムを連携させたハイパフォーマンスインタークラウドの実現に向けた取り組みについて紹介する。
15:00～15:40 講演 35 分 Q&A 5 分	**[3] 広島大学におけるパブリッククラウド活用事例** **～ クラウド化がもたらす本当の効果 ～** **相原　玲二（広島大学）** 広島大学では 2014 年以降、財務会計システム、人事給与システム、公式ウェブサイト、事務用メールシステム、全構成員用メールシステムなどの基幹情報システムを順次パブリッククラウドへ移行した。さらに，2015 年 9 月より稼働する教育研究用システムにもパブリッククラウドを利用している。なぜ事務用システムから移行を開始したか、なぜプライベートクラウドを採用しないかなどを紹介し、クラウド化がもたらす効果と課題を述べる。
15:40～15:55	休憩

15:55～17:15 討議 80 分	[4] パネルディスカッション 「今後の大学等でのクラウド利用はどうあるべきか？」 それぞれのご講演を受けて今後の大学等でのクラウド利用はどうあるべきか、先駆的な大学(提供者・運用者)の経験を踏まえた視点と利用者の立場(高倉先生)からセキュリティ等に関する不安や要望などの視点を加えて議論する。 コーディネータ： 藤村 丞（福岡大学） パネリスト： 長谷川 孝博（静岡大学） 棟朝 雅晴（北海道大学） 相原 玲二（広島大学） 高倉 弘喜（国立情報学研究所）
17:15～17:30	まとめ 閉会あいさつ
17:30～17:45	休憩 （ニュースレター編集会議:講演者/企画委員）
17:45～19:00	懇親会 (会費 ￥500) お飲物とおつまみの簡易パーティです。お気軽にご参加下さい。会費は当日受付にて申し受けます。

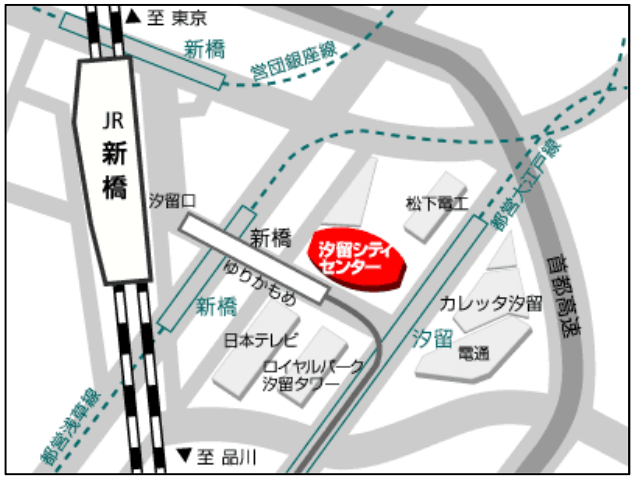
■ アクセス

汐留シティセンターの低層階用をご利用いただきたき、１階受付に向かって一番右側のエレベーターホールから６階に上がり、「User Community Salon」と記載されている扉からお入り下さい。(1 階ロビーにある受付にお立ち寄りいただく必要はございません)

http://jp.fujitsu.com/facilities/shiodome/

<<電車でのアクセス>>
- JR 新橋駅
  汐留口(地下１階)から徒歩３分
- 東京メトロ 銀座線 新橋駅
  出口４(地下１階) から徒歩３分
- 都営地下鉄 浅草線 新橋駅
  汐留方面出口 (地下１階)から徒歩２分
- 都営地下鉄 大江戸線 汐留駅
  JR・ゆりかもめ新橋駅方面出口(地下２階)から徒歩１分
- 新交通ゆりかもめ 新橋駅
  出口 1D から徒歩１分

<<羽田空港から新橋駅までのアクセス>>
- 東京モノレールと JR 山手線
  羽田空港 から 浜松町 経由 新橋駅 (所要時間約 30 分)
- 京浜急行と都営浅草線 (直通電車)
  羽田空港 から 都営浅草線新橋駅 (所要時間約 30 分)



■ ご参加について

- 参加対象 ： SS 研、IS 研、CS 研の各会員機関の方であれば、どなたでもご参加いただけます。
- 参 加 費 ： 無料です。ただし、懇親会については 会費￥500 を申し受けます。
- 定　　員 ： 100 名(予定)

■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込み下さい。

http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/

【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会（SS 研）事務局
〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター
富士通(株) カスタマーリレーション統括部内（SS 研）
TEL：03-6252-2582(直通)
Email:office@ssken.gr.jp URL http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/